

PORT SAPIE

ほろとびえ

2001 JAN.
Vol.12

函館大学広報誌Vol.12●発行／函館大学広報誌編集事務局



●特集 21世紀への挑戦

—VENTURE UNIVERSITYのめざす方向—

生きた授業、生きる授業をめざして

座談会「学長に聞く これからの函館大学像」

特別寄稿「今、君達に期待する」

●FROM THE WORLD

第19回海外研修旅行 アメリカ体験の旅

●平成12年度就職戦線の傾向

「就職に強い函大」は今年も堅調！

函館大学



函館大学校歌

親潮速き

作詩 上田秀雄
作曲 館野信平

一、親潮速き海峡を ひとりと寄する荒波も
 乗り越え行かんひたすらに 北極星を仰ぎつつ
 真理の海に棹させば 黙示ひらけて人の世の
 まことの平和あらわれん お、これぞこれ友垣を
 一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

二、徳並みも霞む大平原 鷗群れ飛ぶ北の海
 尽きせぬ富を拓きつつ 担う文化の豊けさよ
 恵み預ちてもろ人と 手に手をとらば人の世の
 楽園ここに開けなん お、これぞこれ友垣を
 一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

三、狭霧暗れゆく蝦夷松の 林のかなた郭公鳴く
 思索の朝を踏みゆけば 心開くる思いあり
 友とし学ぶ幸ありて 誠に結ぶ学園の
 道をひとすしに進まん お、これぞこれ友垣を
 一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

3月までの主な日程

1月16日	冬期休業終了
1月17日	後期授業再開
1月22日・29日	3年次就職ガイダンス
1月31日	卒業論文提出締切
2月 1日	試験入試
2月 3日	後期授業終了
2月 5日～19日	後期試験
2月14日	特別就職ガイダンス (札幌)
2月19日	3年次就職ガイダンス
2月22日	本学主催業界研究会 就職懇談会 (函館)
3月 8日～14日	公務員受験対策講座
3月11日～31日	春季休業
3月16日	第33回卒業式
3月19日	自己アピール入試

函館大学

広報誌編集事務局

〒042-0955 函館市高丘町51番1号
TEL (0138) 57-1181 FAX (0138) 59-4575



特集 ● 21世紀への挑戦 VENTURE UNIVERSITYの めざす方向

自己改革によるベンチャー・ユニバーシティ（挑戦する大学）
函館大学は、21世紀の新しい大学像を
独自のキャンパスに描き、挑戦しています。

「ぼるとさびえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサビエンティス（知恵や英知を意味します）を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



「商学」の学問領域は、ビジネスに関するすべてにわたり、経営、経済、流通、金融、保険、法律をはじめ、現代社会に必須の情報、そして国際化社会に不可欠な語学と多岐にわたります。学問体系として普遍的な知識は、専任教員等が教授し、それぞれが独自の研究活動を進めそれを講義に反映させています。また各教

生きた授業、生きる授業をめざして

函館大学は「VENTURE UNIVERSITY—ベンチャー・ユニバーシティ—」をキーワードに、「小さくてもキラリと光る大学」（河村学長）を目指しています。ベンチャー・ユニバーシティとは、「特定分野での高い専門性を生かした、創造的で冒険的な企業をベンチャー企業と呼ぶよ

うに、本学も商学という特定分野で、他大学に真似のできない実践的・実践的な企業学を大胆に追求していく」姿勢を表現した言葉です。「商学」の学問領域は、ビジネスに関するすべてにわたり、経営、経済、流通、金融、保険、法律をはじめ、現代社会に必須の情報、そして国際化社会に不可欠な語学と多岐にわたります。学問体系として普遍的な知識は、専任教員等が教授し、それぞれが独自の研究活動を進めそれを講義に反映させています。また各教

員が専門ゼミナールを開設し、少人数制で学生と教員がディスカッションしながら研究テーマを掘り下げています。そして、社会人・企業人としての人材教育を目的に、実社会・企業現場により近い教育を行おうと試みています。それが、幅広い業界から企業人を特別講師として招いて行われる講義です。 函館大学の教員は、専任、非常勤として特別講師あわせて百七人。教員一人に対する学生数は約十三人と、アメリカの大学以上の水準を持ち、それだけ各科目とも少人数制の密度の濃い授業が行われています。



ぼるとさびえ

「ぼるとさびえ」は、ラテン語のポルトス（港や門を意味します）とサビエンティス（知恵や英知を意味します）を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



[表紙] 八幡坂

特集	21世紀への挑戦	
—VENTURE UNIVERSITYのめざす方向—		1
座談会 「学長に聞く これからの函館大学像」		
河村博旨学長＋学友会執行部		4
特別寄稿	今、君達に期待する	
客員教授 島田 征夫		6
著書紹介		7
FROM THE WORLD		
第19回海外研修旅行 アメリカ体験の旅		8
ようこそ留学生		10
北から南から 出身校紹介		11
平成12年度就職戦線の傾向		
「就職に強い函大」は今年も堅調！		12
就職戦線をふりかえって ネット化が進展する就職戦線		
前就職部長 教授 大江田 清志		
採用と就職をつなぐ		
新就職部長 助教授 藤嶋 暁		
もうすぐ社会人！ 内定者の抱負		14
人生の先輩から 講師 鎌田 孝男		14
頑張ってます！ 函大生		15
ゼミナール紹介		16
研究室から		17
教職員プロフィール		18
函館散歩 ちょっと歩いてみませんか(西部地区)		20
いい店食べ歩き		
クラブclose-up 剣道部		22
クラブ紹介 卓球部 写真部		23
公開講座		24
キャンパスレポート Oh!大学祭		26
コラム 「話題の怒」『IT革命』助教授 津金 孝行		26
宮崎教授写真展・弁論大会・コンサート		27
エッセイ 心つれづれ 学長 河村 博旨		28
野又学園プロフィール		
函館大学付属柏稜高等学校		29



「音響ビジネス論」

ソフトが利益を生む時代
ビジネスの感性を
感じてほしい

●特別講師
大野 俊文先生
(元日本コロムビア(株) 国際部長)



私は長年レコード会社に勤務し、現場スタッフの研修教育などにも参加しました。ですから、人を育てることの大切さも難しさも知っているつもりです。

特に音楽業界の場合、商品は音楽という実態のないものです。感性の世界のもので、ハードではなくソフトが莫大な利益を生む時代になります。だからこそ、感性を持った人材がますます求められるのです。

「音響ビジネス論」を修得したからといって、音楽業界へ就職する学生はまずいまいでしょう。でも、私がこの講義で伝えたいのは、感性をいかに商品へ具体化できるか、その商品をいかに売るかのプロセスです。これは、どのビジネスにも共通することだと思います。また私が過去経験したこと、たとえば音楽の流行の変遷など、こうした過去の事は将来形を変えて現れてくるものです。いつの日か学生さんが、仕事の場面で、大学時代に聞いたことがあるぞ、と私の言葉を思い出してくれるようにだと嬉しいです。

などがあります。これらはいずれも、現代生活に不可欠で、産業においても大きな分野として発達し、将来的にも成長するビジネス分野であります。しかし、これらの分野を研究対象とした大学はほとんどありません。こうした分野を科目として独自に取り上げた函館大学は、まさに「時代に即応した商学」を実践していると言えます。

その他の特別講師も、政界や実業界のトップ、他大学の現役教授など幅広く、それぞれが現場・社会での実体験を通して、生きた知識を学生たちへ伝えてくれています。

こうした、現代のビジネスに即応した科目を独自に開発し、その業界から第一人者を招聘する。これは、学問や既成概念に縛られない、函館大学の自由な精神と挑戦する姿勢の一つの現れです。



▲音楽などソフト・ビジネスの成り立ちを研究する「音響ビジネス論」の講義。

「実践コミュニケーション論」

よりよい
コミュニケーションで
よりよい人間関係を
築いてほしい

●特別講師
小林 裕幸先生
(元STV函館放送局長、アナウンス部長)



コミュニケーションの手段の中で、「話す」「書く」ということ、つまり言葉や文章で自分の知識や考え方を相手に伝え、また話を聞き、文を読んで相手を理解することは、人間にとって最も大切なものです。この人前でスピーチしたり、文章を書く教育が我が国では残念ながらおざりにされていると言わざるを得ません。

講義では、毎時間、学生がその日のテーマについて、スピーチしたり文章で書き表します。知識、感性、日頃持っている考え、それらを整理分析して、聞き手や読み手に伝わり理解して貰える表現をすること、これは、自分の持っている能力を自分で引き出す楽しい作業です。私はその手助けをしているわけですが、講義を進める中で、話す、書く楽しさを知り、着実に進歩力を発揮してくる多くの学生に、私も感動を覚えています。

昨年は、17才少年による犯罪が多発するなど、家庭や学校、地域社会でのコミュニケーションの在り方が問われる事件が相次ぎました。今世紀は「個」の時代と言われる。携帯電話、Eメールなど、メディアも個性化しています。これまで以上に記号化された情報が生活の中で飛び交い、人のハートが伝わりにくい世の中になるのではと思います。そうした時代だからこそ、人と話す、人の話を聞く、文章で表現して理解して貰う、「心のキャッチボール」が一層大切になります。将来、社会人、家庭人として、よりよい人間関係、信頼関係を築くためにも、自分の意志をきちんと正確に伝えることの出来る能力を身につけ、磨いてほしいと願っています。



▲外国人専任講師による英会話の講義。



▼「実践コミュニケーション論」では、学生が自ら話し、書いて伝えることを主眼に展開している。



企業・実社会で培った
特別講師の生きた講義

函館大学のオリジナリティーをもっとも色濃く反映しているのが、多彩な特別講師を招聘しての講義です。現在、三十六名の特別講師によって二十三の科目が開講されています。昨年度に比べ特別講師を二倍強も増員し、全国の大学でも類を見ない多彩な科目を実現、函館大学の個性を一層鮮明にしています。特別講師は東京が主ですが、名古屋・関西在住者もいて顔ぶれは全国区。学生にとっては函館に居ながらにして、中央の業界人の講義を受けられることになります。

今年度新たに開講し、全国的にもユニークな科目としては

- 「実践コミュニケーション論」
小林 裕幸
- 「元STV函館放送局長・アナウンス部長」
梨元 勝
- 「芸能社会学」
梨元 勝
- 「芸能リポーター・コメンテーター」
山内 鉄也(映画監督・シナリオライター)
- 「音響ビジネス論」
大野 俊文
- 「元日本コロムビア(株)国際部長」
浜田 正行(元(株)東京ドーム副社長)
- 「レジャービジネス論」
橋本 保雄(ホテルオークラ顧問・元副社長)
- 「ホテルビジネス論」
橋本 保雄(ホテルオークラ顧問・元副社長)
- 「医療ビジネス論」
保阪 正康(ノンフィクション作家・評論家)



▲研究テーマに自らアプローチしていく少人数のゼミナール。



▲講義では学生の発言の機会を数多く与え、一歩通行の講義では終わらないようにしている。



▲現役スチュワーデスが講師を務める「ビジネスマナー」



「芸能社会学」

芸能ニュースから時代を探る
新しい領域の先鞭となる

●客員教授
梨元 勝先生
(芸能リポーター・コメンテーター)



「芸能社会学」という芸能界を取り上げた講義を開設したのは、まさに函館大学の英断であり挑戦ですね。私も学長の熱意に感銘し、客員教授をお引き受けしました。

芸能界ニュースほど、その時々を社会を写し、人間ドラマが浮き彫りになるものはありません。これまで、社会から芸能を見るケースは多々ありましたが、芸能ニュースから社会を見るという視点は新しい観点です。これは裏を返せば、社会におけるマスコミの存在理由を探ることであります。

昨年秋から講義が始まり、まだ手探り状態で進めていますが、学生にお話ししたり、学生の質問などから記憶が甦ってきて、私の中でも少しずつ整理がついてくるんです。函館大学の学生は熱心に講義を聞いてくれますし、意見を求めるとユニークな発想の意見が返ってきます。本当に刺激的ですね。

「芸能社会学」は確立した学問ではありませんが、だからこそ誰かが先鞭を付けなければなりません。その意味でも、この機会を与えてくれた函館大学には感謝しています。



▲「芸能社会学」の講義。芸能界から社会に切り込む、おそらく全国唯一の科目だろう。

これからの函館大学像

「日本の大学は生き残りかけた大競争時代」の中、函館大学はどのように自己改革を進めていくのか、またどのような個性づくりをめざしているのか。河村学長が描く「これからの函館大学像」を、学生自治会である学友会執行部の四人が聞きました。



ハード(施設)とソフト(教育内容)の充実で個性を



学長 河村 博旨

は出ていません。それではいけない、教育内容で特色を出そうとしているのが函館大学です。その具体的な試みが客員教授や特別講師として、学外から多彩な人材を招いていることです。これら特別講師の方々は、企業現場で社員教育に携わったり、業界研究に熱心だったり、たいへん経験豊富な方々です。その経験に基づいてリアリティのある講義、これを函館大学の実践的教育として特徴づけていきたいと思っています。

岩崎 ● 僕も特別講師の講義は二つ受講していますが、学生にもっと特別講師の詳しい情報を与えてほしい。学生に対するPRが足りないんじゃないかと思えます。

佐藤 ● こんな講師がこういう講義をするんだと、事前に内容が分かれば選択しやすいんですが。友達から話を聞いて、それ面白そうだなと思っただけがよくなります。



岩崎 剛也くん

学長 ● いま日本の大学は、生き残りをかけての大競争時代です。私学も自由化と言われながら、どの大学も横並びのことかしらないので、個々の特色が出ていないんですよ。私学の中では、新しい学部やコースを増設したりしている大学もありますが、名称は変わっても従来の学部の教育内容とさほど違い

できる期間がほしいですね。
齊藤 ● 先生方が自分の授業をPRするプレゼンテーションの時間や、オリエンテーションの場で授業のビデオを見る機会を作ってくれたらいいと思います。



岡本 義一くん

ます。こうなれば、より授業内で質疑応答が盛んにできたり、学生と教員が親密になり進路の相談などにも深く関われるようになります。だから、今まで以上に幅広い人材を招き、例えば海外からも呼んでくるなど、特色づけをしていきたい。そうすれば、函館大学は入学してから自分のやりたい勉強を選択できて、しかも素晴らしい先生方がいる、という風になると思えます。これも、この方針を教授会など専任の先生方が理解してくれ、やってみようと挑戦する気持ちがあるからできるんです。



斉藤 悠太くん

岩崎 ● でも、最近ではスポーツ推薦で入ってくる学生が多いから、趣味でスポーツをやりたいという学生はクラブに入りづらいのが現状です。

佐藤 ● クラブに入っている学生の中には、遊ぶ時間がほしい学生が正直少なくないと思うんです。で、クラブ活動でも単位が取れば、クラブ活動をする学生も増えると思います。クラブに入ると友達もできるし、つきあいも深くなるので、クラブ活動したいと思っている学生は多いと思いますよ。

岩崎 ● それと、履修登録の期間が短いです。検討する時間があまりありません。
学長 ● それは、大学側で検討しなければならぬ。
齊藤 ● 新しい学部をつくる考えはないのですか？
学長 ● 新しい学部を作るといっても、もつと実際のな科目を増やしていきたい。例えば、エネルギー、環境などといった今日的な問題に関わる科目を、そして、そうした中で系統だったものができれば、コースとして設定することは考えられます。

クラブやゼミでチームを運営する力を
学長 ● 学業だけでなく、課外授業も活発な大学にしたいと考えています。特に体育系のクラブは就職でも有利になるし、そうした学生がいるんな企業へ就職すると、その後の学生にも就職のチャンスが広がって行くと思う。



佐藤 怜くん

岡本 ● 学外からの特別講師は今後も増やしていく方針ですか？
学長 ● 今、函館大学の教員は百七人、それを百二十人まで増やせば、教員一人に対し学生数十人になり

学長 ● 社会に出ると、必ず何らかの組織やチームで行動するわけですから。個性の強い人が集まらなければ強力なチームはできないわけで、そうしたチームを運営していく能力を、クラブ活動やゼミなどで養えると思うんです。君たちも学友会

という組織を作って活動しているわけだけども、この経験をどう生かしたいと思ってるのか聞かせてほしい。
岩崎 ● そうですね、例えば備品を購入するにも業者さんから見積もりを出してもらったりと、そうした交渉の経験は仕事でも生きてくると思います。あとは、先輩後輩からたくさんのお話を教わりました。これが大学時代の財産になると思っています。

分を発見でき、大学に進学させてくれた両親には感謝しています。
齊藤 ● 僕も最初は何もできなくて、先輩たちからいろいろ教わりました。そして、一つやり遂げた時の達成感や充実感を味わうことができました。だから、苦しい場面でも頑張っている気がします。本当に周りの人たちに感謝しています。
学長 ● 学園訓の第一が「報恩感謝」。人からの恩恵に感謝し、それに報いる。それをしっかり胸にしまっ、これからも頑張ってください。今日はありがとう。



『今、君達に期待する』



客員教授 島田 征夫
(早稲田大学法学部教授) (国際法担当)

いよいよ二〇〇一年、二十一世紀が始まった。新しい世紀だからといって、何もかもが急に変わるとは思えない。しかし、変わらなければならないものがあることも事実だ。

十九世紀と二十世紀とを比較してみると、大きな変化があったことが分かる。二十世紀の初めに、二十世紀がこんなにも十九世紀と変わると予想した人が何人いただろうか。二十一世紀に生きる君達は、二十世紀の遺物を引きずらない覚悟も必要だろう。

二十一世紀は、我々の予想をはるかに上回る時代になるだろうと想像される。特に環境の

悪化、人口の爆発的増加、情報氾濫、科学・医療技術の飛躍的発達等々、枚挙にいとまがないほど世界は変わるはずである。現在楽しんでるものが、将来苦痛となり、現在悩んでいるものが将来全く問題にならなくなるなどのことが起きるに違いない。そんな二十一世紀を予想しながら、君達への期待を書いてみたい。

二十世紀の日本は、欧米に追いつき追い越せの百年だった。これからの百年は、欧米との違いをどうやって創っていくのかが問われる時代である。そのためには、欧米に目を向けているだけでは、十分とは言えない。

そこでまず考えなければならぬのは、日本が置かれている立場である。日本は、アジアの国であり、人口が多く、資源が少ない。教育程度は高いが、宗教の意識がそう強くない。人々は親切で、よく法律を守るが、個人主義も強くなりつつある。

二十世紀の日本人は、こうしたマイナス面を減らし、プラス面を伸ばそうとしてきた。しか

し、二十一世紀には、そんな態度だけでは、世界が許してはくれない。たとえば、物を売るだけで、あまり買わないとか、外国との約束を国内事情で守らないとか、外国に多く出かけて行くが、外国人はあまり入れないとか。

国際化と言われる時代にあつて、多くの国の人が集まったときに、日本人としての自分の意見をもつことと、外国人の意見を正確に理解することが必ず必要である。外国人が日本人をどう見ているかを考えると、ニヤニヤするだけで黙っていたり、何を考えているのかさっぱり分からないというのが、今までの外国人の日本人観である。

私が君達に期待したいのは、まず語学を強くして、アジアを見て歩き、アジアを実体験することである。たとえば、学生時代にアジアのどこかの国で一ヶ月くらい暮らしてみようだろうか。その国の人々の生活習慣を知ってほしい。ただの旅行ではなく、滞在型の旅をすることである。これは、アジアの一国を理解する糸口になるが、予

想以上に貴重な体験になろう。この成果を高めるのは、その国から学び取るうとする謙虚な姿勢であろう。我々がアジアを知って初めて、アジアが日本を知ってくれることになる。

次に、日本の豊かさをアジアに広める努力にも期待したい。現在の日本は、経済的には欧米並みになったが、その分日本らしさが失われたと言われる。日本は、経済的には、確かに豊かになったが、他方でアジアの国は、依然として文化的には個性である。二十一世紀、日本は、アジアと豊かさを共有する代わりに、アジアの国から固有のアジアらしさを学び取る姿勢が求められるであろう。

二十世紀のアジアは、日本だけが突出したと言われるが、二十一世紀のアジアは、現在の不安定さを克服して、豊かで安定した地域の構築が可能である。そのためには、君達一人一人に、アジアに向けて大きく発進する気概が求められる。

二十一世紀、北の大地は、大きな可能性を秘めて、君達の夢を育んでくれるはずである。

『モラルハザードへの挑戦』

著者

客員教授 佐藤 道夫

1999年4月10日発行 近代文芸社刊



副題が「ある政治家・法律家の提言」となっているように、本学客員教授である佐藤道夫先生は、現在参議院議員の政治家であり、元札幌高検検事長という法律家でもあります。その著者が、新聞・雑誌等で書き記した文章をまとめたのが本書です。

著者の憂いは、はしがきにこう書いています。「この国は病んでおり、しかもその病状は重く、政・官・財にどっかりと根を下ろしているこの病巣をそのままにしてはおけない。病状を的確に把握し、根本的な対処療法を施し、一日も速く正常な健康を回復して二十一世紀という新しい時代を迎えたいものである」と。

その病巣こそが、書名にある「モラルハザード」であると著者は指摘しています。本書の帯に、作家・高村薫氏は「上は政治から下は日々の生活まで、建前が失われたこの国の姿は見えにくい。人も社会も皆かばらばらな個々の欲望で動き、互いに関心を失い、全体の姿を見失っている今、この国にはどんな問題があるのか。政治・経済・社会のさまざまな課題を、今一度モラルという建前で捕らえ直した本書は、この国を映す一つの端正な鏡になると思ふ」との言葉を寄せています。二十一世紀の終わりに、今の日本を鋭く映し、日本人の誇りを真摯に問いかける一冊です。

著書紹介

『こちらロンドンJSTV』

著者

客員教授 島村 矩生

2000年7月7日発行 函館大学出版会刊



島村先生は、一九五七年にNHKに入社し、ロンドン、サイゴン、アメリカ駐在を経て、一九九四年から九八年までロンドンの(株)日本サテライト・テレビジョン(JSTV)代表取締役社長を最後に放送界を離れた。

本書は、九〇年代初頭から始めた多チャンネル、マルチメ

ディア、情報国際化という時代の動きを、JSTVという日本語テレビ放送局のトップとして体験した生身の報告です。「現在、海外で生活している日本人は約七百万人です。でも、その国において日本人はほんの一握りにすぎません。いわばマイノリティーなんですね。マイノリティー向けのメディアは、多チャンネル時代こそ実現できる」と語る島村先生。

こうした国際ポータル時代に、放送事業がどう対応してきたか、その実態や仕組み、また日本語放送局の経営理論や運用方法などが、具体的な事例を通して語られています。もちろん、現場ならではのリアルな話が随所にちりばめられています。また、九五年から九八年にかけて、読売新聞衛星ヨーロッパ版に連載したコラム「日欧放送散歩」を再録。本文とコラムをからめることで、激動する現代放送界の貴重な証言となっています。またこのコラムでは、その時その時の日本のテレビ事情を、海外から眺めた著者の分析が、今読んでも面白く読めます。

参加学生が語る第19回函館大学海外研修旅行

アメリカ体験の旅

期日/平成十二年七月十七日～二十六日(十日間)
参加者/団長 世良 耕一(助教)
副団長 ブライアン・ダッフ(講師)
引率者 干場 勝(入試課長補佐)
学生 十二名

函館大学が毎年実施している「海外研修旅行」、十九回目となった昨年の旅行ではアメリカ西部のラスベガス、ロスアンゼルスを見学してきました。日本と同じ経済大国のアメリカを、学生たちはその目で見て、日本とは違う経済文化を肌で感じてきたようです。

好景気の絶頂にあるアメリカが 学生たちの目にどう映っただろう



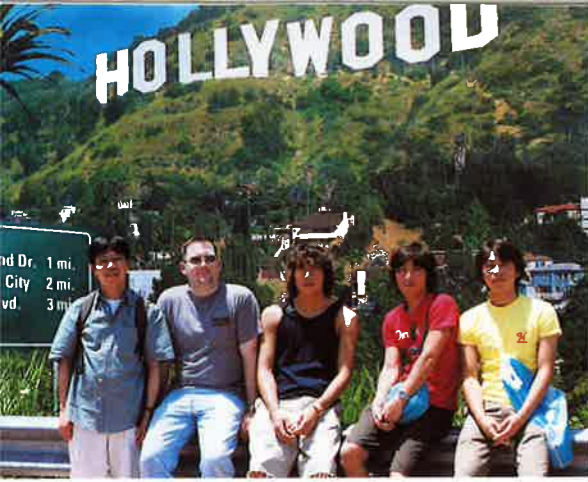
団長 助教 世良 耕一

なぜかヨーロッパに比べ学生に不人気なアメリカ旅行。前回引率する予定だったサンフランシスコ、ロスアンゼルスにアメリカ旅行も最小催行人員に達せず不成立となり、今回のリベンジに臨んだ。ダッフ先生の強力な働きかけもあり、最小催行人員十人をようやくクリアして、集まった人数が十二名。これに、私を含めた教職員三名を加え、総勢十五名の研修旅行となった。

私にとってはニューヨークでの留学から帰ってきて以来の、八年ぶりのアメリカであった。不況のどん底にあった当時と比べて、好景気の絶頂にあると報道されるアメリカの繁栄は、多くのエコノミストが指摘しているようなITによる永続性のある特別な繁栄なのか、或いは一部の学者が警鐘を鳴らしているような歴史上何度も繰り返されているバブルなのかをこの目で確かめることを、一つの課題として考えていた。

ラスベガスでの最後の夜、イルミネーションを見学するツアーに参加した際、その答えが見えた気がした。バスのガイドは、華やかなイルミネーションに彩られたホテルを次々に案内し、それらを爆破しては、より大きなホテルに建て替えられるプランがあることを誇らしげ

に話していた。その異常さに、どこかの経済大国の十年前と同じ風景を目の当たりにした気がした。バブルの頃を知らない、学生の目には、このラスベガスの繁栄ぶりはどう映ったのであろうか。
真夜中でも平気で一人で歩けることができる緊張感のない街ラスベガスは、アメリカの中では異色な街である。まず、安全なラスベガスに入りアメリカ生活に慣れた後、ロスアンゼルスに突入する今回の旅行は、学生にとって非常に溶け込みやすいものであったと思う。ロスアンゼルスでの最後の日、つまり今回の旅行の最終日に、旅行中に少し遅くなった学生たちが、自分の意志で自由に行動している姿をみて、今回の旅行の成果をみた気がした。



at Dodgers stadium



Jurassic park ride at Universal studios



MGM Grand Hotel-Las Vegas at night



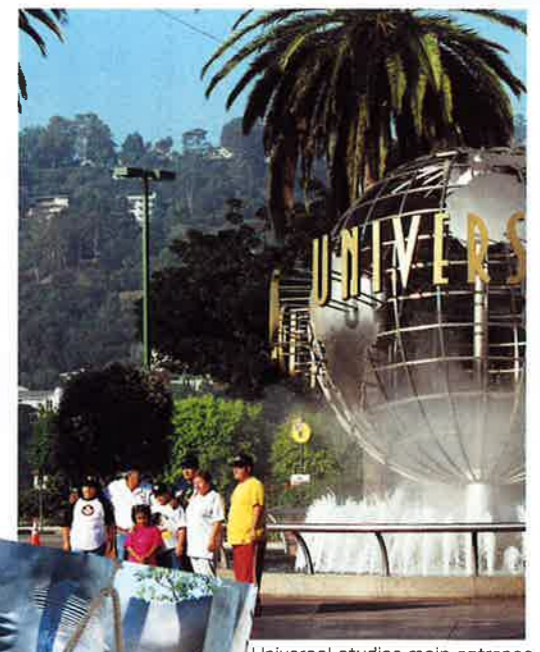
Las Vegas Airport



副団長 講師・ブライアン・ダッフ



Grand Canyon



Universal studios main entrance Los Angeles, California



Universal studios, Los Angeles



at UCLA Store

◆楽しみだったランドキャニオン

吉田 隆志

(三年・宮城県古川商業高校出身) ラスベガスの旅は、私にとって新しい発見の連続でした。ホテルでの数々のショーやネオンの華やかさ、そして今回一番の楽しみだったランドキャニオン、どれをとっても日本では味わえない感動でした。冬のロンドン・スペインの旅とは違う楽しさを体験しました。

◆海外で体調管理に気を遣いました

奈良 好陸

(二年・函館稜北高校出身) この海外研修で一番印象に残ったのは、アメリカはものすごく暑いということです。ラスベガスは、日中の気温四十四度と想像もつかない暑さでした。ところがホテルでは室温十六度と、温度差が三十度もあり、体調管理に気を遣いました。暑さと戦った旅行でした。

◆ハンバーガーを買つてもアメリカだった

貫 隆司

(三年・函大付属有斗高校出身) アメリカはファーストフードの本場。ロスアンゼルスのホテルで、「マックは近くにありませんか」とフロントに聞くと、「近くにあるが、歩くのは危険なのでタクシーで行かないと無理だ」と言われ、アメリカという国を見た思いだった。添乗員さんの付き添いで、スーパーバーガーサイズのマックを手に入れました。

◆肌で異文化を感じました

山田 直樹

(二年・宮城県小牛田農林高校出身) 今初めて海外旅行を経験し、アメリカ西部地方の異文化にふれ、自分の中の考え方や物事を見る目が変わったと感じます。普段、大学では学べないようなことが、直接肌で感じる事ができてよかったと思います。

◆英語力をつけて、また行きたい

堂寺 信行

(二年・函館大谷高校出身) 昨年の夏の最高の思い出は、初の海外旅行です。行き先は、ラスベガスとロスアンゼルス。目に映る物事すべてが現実になく、夢のような十日間でも短く感じました。英会話力と資金を蓄えて、いつかまた行きたいと思えます。

今年度も函館大学では、海外からの新たな留学生を迎えました。オーストラリア・ニューカッスル大学から二名、ハワイ・パシフィック大学から一名が、昨年九月から今年八月まで函館大学で学んでいます。

この三名の留学生と聴講生をご紹介します。

ジャスティーン・ルイス
Justin Lewis
オーストラリア・ニューカッスル大学から留学



函大に留学していた先輩が楽しかったと言っていました。今年度キャンパスも広く、いろいろな学部がありますが、それに比べ函館は小さな大学という印象ですが、コンピュータなどの設備は整っていますね。学生は、みんなとても楽しそう。私も何かのクラブに入り、日本の学生と友達になりたいと思っています。

実際の生活の中で学んで将来は日本語の教師に



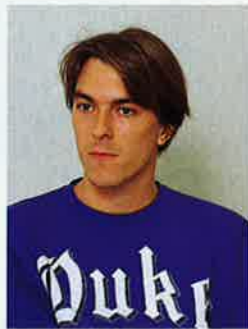
ダイナ・カウメドゥ
Dana Counneadow
オーストラリア・ニューカッスル大学から留学

私も高校の時から日本語を勉強していて、将来は日本語の先生になりたいと思っています。それで日

聴講生

マチユー・クリニア
Mathieu Crierie

七月には東京で就職
それまで日本語を勉強します



僕は一年前にアメリカのポストン大学を卒業して、今年七月に

本に来て、日本の生活の中で日本語をおぼえる方がいいと思います。今回留学することになりました。私は歴史も好きなので、函館の歴史も知りたいなと思っています。

函館の街は、歴史的建物が多く残っていて、とても美しい街ですね。自然もたつぷりで、すぐに好きになりました。

函館大学では先生も学生たちも、とてもフレンドリーです。だから、大学の人も、函館の人も、みんな友達になりたいです。この間、地域の運動会があつて参加したんですが、子供たちといっしょに走ったりして、とても楽しかったです。一年間の函館の生活で、いい思い出をたくさんつくりたいと思っています。

フランスのソシエテ・ジェネラル銀行の東京支店に就職が決まっています。それまでの間、日本語を勉強しようと思いい、函館大学の日本語の授業を聴講生として受けています。

僕がなぜ函館にいるかというと、ポストン大学の時の友達が函館にいて、函館はいい街だから来い、ということになったわけです。

ポストン大学では金融を専攻していたし、これから銀行に勤めるわけですから、函館大学でも金融に関する講義を受けられたらいいのですが、まだ日本語を勉強し始めたばかりなので、ちょっと無理ですね。

日本語の勉強にいいのは、カラオケ。友達とよく行って、日本語の歌を歌っています。



アレクサンドラ・ステンストローム
Alexandra Stenstrom
ハワイ・パシフィック大学から留学
五カ国語が話せます
今は日本語がいちばん苦手

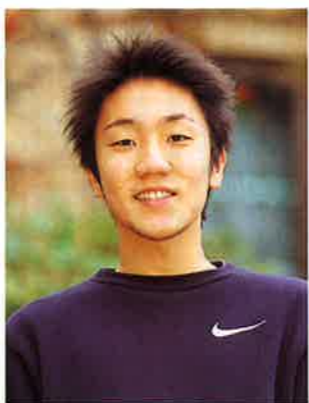


私はスウェーデン人です。そして、ハワイ・パシフィック大学に入学し、日本語を勉強し始めました。私はスウェーデン語、フランス語、ドイツ語、英語が話せますが、今は

日本語がいちばん苦手。ヨーロッパの言語を話せる人は多いですが、日本語を話せる人はまだまだ貴重です。世界中の人たちとコミュニケーションをとるためには、やっぱり言葉が話せることが大切です。もちろん、将来の仕事にも役立ちます。私は将来、メディア関係で働きたいと思っています。

私の母校

千葉明德高等学校



杉山 真くん(二年)

私の母校は、高校・短大・幼稚園が同じ敷地内にあつたので、とても広い学園でした。体育館もバスケットコートが四面も入るほど広がっています。中庭もきれいで、昼休みになると、よこの中庭でサッカーをしています。勉強の面では、二年生から理系・文系に分かれて勉強し、科目も選択制度を導入していたので、自分の好きな科目や勉強してみたい科目を、自ら選んで勉強することができる学校でした。

また、たくさんの先生方にも恵まれ、大変お世話になりました。特に、一年生から三年生までずっと担任だった古谷先生。函館大学を勧めてくれたのも古谷先生でした。本当に感謝しています。

今、私が函館大学で充実した毎日を送れて

いるのも、充実した高校生活があつたからだと思います。

大胆な選択講座制で目標に合わせカリキュラムが可能

校名は、中国の古典「大学」にある「明德を致せ」に由来するもので、この言葉が校是となっています。

教育指導は「自己発見と自己実現のサポート」を基本理念に、進学・就職の結果だけを求めるのではなく、三年間を通して「トータルな生き方指導」を展開しています。

高校では全国的にも例を見ない大幅な選択講座制を導入し、八十以上ある講座の中から、自分の目標に合わせた選択講座を組み合わせたことができます。また衛星通信を使った予備校サテライト授業、その講義をビデオに収め自由に利用できるビデオ学習等、生徒が自主的に学習できる環境を整えています。

国際交流活動も盛んで、アメリカ、オーストラリア、フランスに姉妹校を持ち、三週間の短期留学を相互に実施。また海外留学生も積極的に受け入れています。



千葉明德高等学校
千葉市中央区南生実町1412番地
創立：大正14年

北海道森高等学校



丹野 功一くん(二年)

私の母校、北海道森高等学校は、平成十一年度から「総合学科」に変わりましたが、僕が入学していたときは普通科と家政科に分かれていました。森高校が昔、女学校だったことから、家政科があつたようです。

高校時代で思い出深いのは学校祭です。学校祭では、山車や衣装を各クラスで製作し、町内をパレードして練り歩いたり、テーマに沿ったクラスごとの展示、また、部活や同好会の展示など盛りだくさんのプログラムで、大いに沸き、燃えました。

森高校は部活動が盛んで、柔道、剣道は道内有力校の一角に挙げられています。野球部、サッカー部、バスケットボール部などの運動部、手話、茶道、コンピュータなどの同好会があり、みんな頑張っています。卒業後の進路は、進学・就職がほぼ半々の割合です。

一年前に総合学科の高校に変わり、後輩たちはますます伸び伸びと自由な雰囲気勉強

していることと思います。僕も森高校の卒業生として、後輩たちにこれまでの伝統を生かし、そして新しい伝統を作っていくよう期待しています。

北海道で二校目の「総合学科」高校

平成十一年度から「総合学科」に転換した公立校で、北海道では二校目となります。現代のように産業・就業構造が大きく変化している時代、中学卒業時に将来の職業選択を見通すことは難しい状況です。そのため、従来の学科の枠を取り除き、高校での学習や活動を通し適正な能力を発見し、将来の道を探ろうとするのが総合学科の目的です。

人文科学、自然科学、食文化、生活福祉、情報ビジネス、情報メディア、国際教養、七つの系列に分けた履修科目の中から自分の興味ある科目を選択し、総合選択科目と自由選択科目を組み合せています。これまでの商業教育とは違い、幅広い選択肢の中から将来の方向性を探り、その方向に向けた科目を自分で選択できるということが、最大の特徴です。取得可能資格も、情報系、福祉系、食文化系など幅広い分野に及んでいます。

総合学科に変わってまだ二年ですが、新しい高校教育のスタイルを探り、森高校ならではの特色を作ろうと、教職員が努力しています。



北海道森高等学校
北海道南茅部郡森町字上台町326-48
創立：昭和16年

「就職に強い函大」は今年も堅調!

平成十二年度も終了間近となり、就職戦線もいよいよ大詰めとなっております。今年度も経済状況・企業の採用活動が目立った回復が見られない中でも、本学の十月までの求人件数は全地域・全業種で前年比七・九%増となっております。詳細な数字は現在集計中ですので、次号でお知らせすることができると思っています。

また昨年十一月から、就職部長が大江田清志教授から藤嶋暁助教授へとバトンタッチされることになりました。そこで、大江田教授からは今年度の就職戦線で目立った傾向と、藤嶋助教授からは就職部長就任にあたってのご挨拶をいただきました。

新就職部長

採用と就職をつなぐ

平成十二年十一月一日付で就職部長に就任

助教授・藤嶋 暁



お目にかかりたいと血眼になっていきます。しかし、その人材とは、具体的にどんな人間であるかをしっかりと示せる採用担当者も多くなっているように思っています。それは極めて一般的な「優秀な学生」ではないはずであるからです。例えば、内定が一段落した時点で、改めて個別の学生の特徴と内定企業のタイプを付き合わせてみると、驚くほど整合性があります。つまり、会社はその風土や事業の特色に合致した人材しか採用しようとしていないようにも見えます。また、次に紹介するのは、ある大手電機メーカーの採用担当部長さんのコメントであります。「マスコミの影響で、採用、配置、育成、評価等の人材観がパターン化しており、危惧しております。……体験させ、マッチングを確認できないだけに今の採用の仕事はリスクが大きい。しかもそれ

冒頭から私事にわたって恐縮であります。平成四年にそれまで二十年近くにわたって生活してきた企業の世界から、大学に転じたため、自然に企業と大学、つまり採用と就職の突合せに関心を持たざるを得ない立場に立っています。自分のことを棚に上げて述べれば、どちらの側も互いにマッチングを図ろうとする努力が足りないように感じています。

一方企業側においても、会社の競争力の六割以上は、採用時にどれだけ優秀な人材を確保するかで決まってしまうという言い方もありますし、採用責任者として、誰しも、未来の経営者であり、自らの後事を託せるような人材に

「一般的に優秀な若者」ではなく、本当に社会が必要とする人材とは何か。全く確信がないのですが、これまでのところでは、学生時代に「すぐく面白いことを見つけた若者」ではないかと感じています。経済や社会に対する溢れるばかりの知的好奇心といった良いものもありません。食欲といったし、一度は「うまい」と感じなければ、次に何かを食べようとは思わないのではないのでしょうか。「これはすごい!これはすごい!」と感じながら自らの仕事にチャレンジするような人間こそ、企業が必要とするのでしよう。そんな財産を持って、採用担当者に自分を売り込みたいと思っているような自負心のある学生を、一人でも多く育てたいと考えています。

動き出した来年度の就職活動

年々早期化していく就職戦線に対応するため、本学では昨年10月から3年次を対象とした就職指導を本格的に開始しています。

●平成12年度の主な就職スケジュール●

- 10月2日(月) 3年次就職ガイダンス (就職活動決起大会・就職講演)
- 10月23日(月) 3年次就職ガイダンス (就職活動の進め方・就職要覧写真撮影)
- 10月30日(月) 3年次就職ガイダンス(就職適性検査)
- 11月6日(月) 3年次就職ガイダンス(エリア別採用情報提供)
- 11月13日(月) 就職講演
- 11月20日(月) 3年次就職ガイダンス(就職活動体験発表会)
- 11月27日(月) 就職講演
- 12月1日(金) 就職ニュース(第28号) 発送
- 12月4日(月) 3年次就職ガイダンス(面接の心得)
- 12月~1月 企業訪問(採用情報収集 21コース 220社)
- 12月9日(土) 就職会館セミナー(グリーンピア大沼)
- 12月10日(日) 就職懇談会(札幌)
- 12月11日(月) 就職懇談会(札幌)
- 12月13日(水) 就職懇談会(東京)
- 12月14日(木) 就職懇談会(東京)
- 1月22日(月) 3年次就職ガイダンス(就職対策セミナー)
- 1月29日(月) 3年次就職ガイダンス(一般常識テスト)
- 2月14日(水) 全就研道支部主催 第4回特別就職ガイダンス(札幌)
- 2月19日(月) 3年次就職ガイダンス(業界研究会事前指導)
- 2月22日(木) 本学主催業界研究会・就職懇談会(函館)
- 3月1日(木) 求人申込書・就職要覧全国一斉発送(約5000社)
- 3月8日(木) 公務員受験対策講座(春期)
- 3月14日(水)

※平成13年度の活動は現在計画中



就職ガイダンス

を良いことに安易なテストが流行(受験と同じ)しています。最近の傾向として、企業では年間求人や経験者・職種別採用など、いわゆる「スペシャリスト志向」が一つの方向として打ち出されています。しかし、おおよそ日本企業が長年にわたって培ってきた「人材の開発と活用の風土」は、本当に放棄されるのでしょうか。敢えて若手に起案させることによって育てようとした稟議制度、責任と権限・待遇の間に意識的なギャップを設けた巧妙な能力開発システムなど、かつて「教育投資の手厚い国は栄える」とのコンセンサスの下で推進された人本主義はもう存在しないのでしょうか。新しい世紀を迎えようとしている現在、全く新しいセンスと発想を持つ新卒者には専門性の高いスペシャリストには魅力



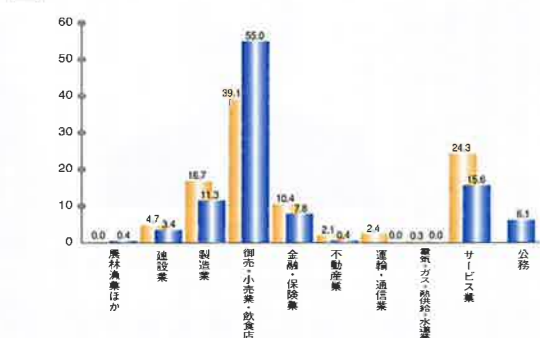
函館大学主催の業界研究会

があるように思えます。何故ならば、iモードは若者のチャットに支えられて普及したのであり、コンビニから学生が消えてしまえば最大のユーザーが彼等であることは言うまでもありません。女性と中高年の能力が日本の残された余力であるといわれてきましたが、若者もこれに加わるのでしよう

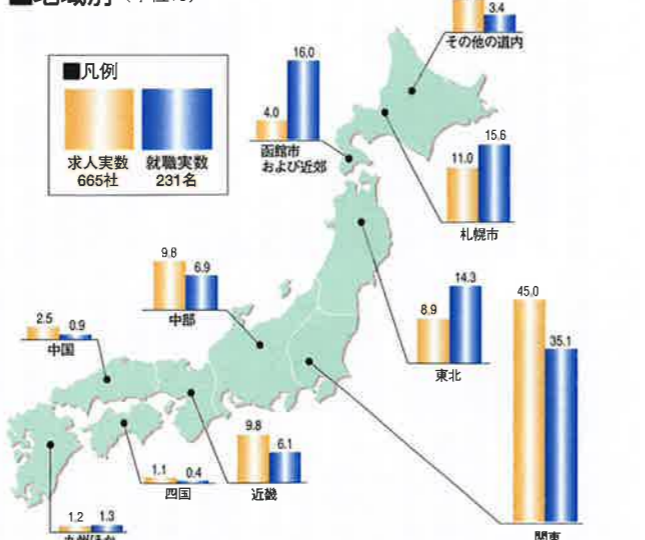
か。 「一般的に優秀な若者」ではなく、本当に社会が必要とする人材とは何か。全く確信がないのですが、これまでのところでは、学生時代に「すぐく面白いことを見つけた若者」ではないかと感じています。経済や社会に対する溢れるばかりの知的好奇心といった良いものもありません。食欲といったし、一度は「うまい」と感じなければ、次に何かを食べようとは思わないのではないのでしょうか。「これはすごい!これはすごい!」と感じながら自らの仕事にチャレンジするような人間こそ、企業が必要とするのでしよう。そんな財産を持って、採用担当者に自分を売り込みたいと思っているような自負心のある学生を、一人でも多く育てたいと考えています。

平成十一年度の就職実績 (※平成十二年度は集計中)

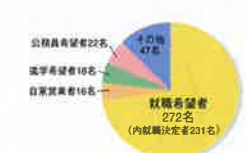
■業種別 (単位%)



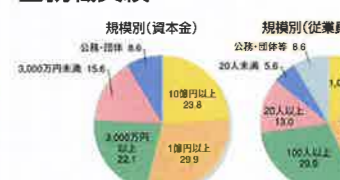
■地域別 (単位%)



■進路状況 (卒業生375名)



■就職実績 (単位%)



前就職部長・教授 大江田 清志

ネット化が進展する就職戦線

情報・通信革命(いわゆるIT革命)の進展は、企業の経営に新しいビジネスチャンスを与え、ともに、新しい雇用の機会を作っています。日経新聞の二〇〇一年度大卒「採用計画調査」によると、採用計画上位十位にランクされる十一社のうち八社までが情報・通信事業に関連する企業で占められています。デジタルデバイス(情報格差)が、企業の競争優位に大きな影響を及ぼしていると考えられています。自らの職業を考えたうえで、このような業界や分野を視座の一つに加え、努力することも有効なものとなるでしょう。ITの進展により、最近の就職戦線にも大きな変化が出ています。インターネットを利用した採用活動のネット化を、オープンなエントリー機会が増加する好機の到来と受け止め、学生と大学はそれぞれの立場で、情報・通信武装をますます強化することが急がれる時代です。

もうすぐ社会人！内定者の抱負

今年度も、函館大学の就職状況は順調に内定を確保し、いま四年生たちは春からの社会人としての生活に期待をふくらませています。そこで二人の学生に、社会人としての抱負、そして改めて函館大生での学生生活を振り返ってもらいました。



小田島 広則
(岩手県盛岡中央高校出身)

●「イーヨーカードグループ」イーヨーホテル内定
企業人講師のお話はすべてが貴重でした

私は数社から内定をいただき、自分の進むべき方向についていろいろ考えた末、将来自分を生かすことのできる職場であることを第一条件に、最終的にイーヨーホテルという会社に決めました。

私が企業について深く関心を寄せたのは、二年生のSLの時のテーマが「企業とはどういうものかを学ぼう」ということで、アメリカのビジネススクールで作られたケーススタディ（企業の事例を用いて研究・討論する学問）を学んだことがきっかけとなりました。経営学にすっぴんはまってしまいました。この頃から将来、企業経営をしたいという目標を持ち始めました。幸いに函館大学には、日本のトップ企業で活躍されている講師が多くおり、実践的な指導をしてくれます。その講師陣から私たちが学生に対して、将来トップ企業で活躍するために何が必要か、成功へのプ

ロセスを具体的に教えてもらいました。また、他の大学では学ぶことができない学生と企業家の壁について、多くの企業人講師の指導を通して、その違いを肌で感じる事ができました。これは函館大学でしか体験できない環境であり、この四年間が自分という人間を作ってくれました。

これからの教育は、少人数制による教育が重視されると言われますが、函館大学には二十一世紀を生きるためのステージが整っています。後輩たちには、明日にある自分を描き、函館大学で自分自身を鍛えてほしいと思います。未来を築いてください。

●日本生命保険相互会社内定



後藤 由民佳
(愛知県松蔭高校出身・パララット大学留学中)

資格・留学、そして就職目標を持って充実した四年間でした

私は将来、自分に技術をつけたいと考え、SEかFPになろうと考えていました。その希望に沿って私の就職活動は始まりました。何社かを訪問しているうちに、将来自分の技術を向上させる企業を自分なりの基準に合わせて

最終的に日本生命保険相互会社に決めました。そのため就職活動は六月で無事終了することができましたが、新たな自分への挑戦として、オーストラリアのパララット大学への留学を考えました。

しかし、四年生で留学するためには、それ以前に履修科目のすべての修得が必要で、資格取得を含め相当頑張らないと、留学はできても同じ学年の人と一緒に卒業できないという事態になってしまいます。生活設計というか、留学に合わせ可能な時間の計算をしました。そして無我夢中の頑張りがスタートしました。夢がだんだん近づいていくことを実感しながらの毎日です。

た。その甲斐があつて五月までに全履修単位修得、商業一種高等学校免許状、そして就職活動を終え、内定をいただくことができました。

今、私はオーストラリアにいます。提携校であるパララット大学で念願だった英語を話し、生活する毎日に満足しています。

この留学と四年間を通して私が感じたことは、函館大学は学生の自主性を尊重し、目的意識を持って実行すれば、あなたの希望を認めてくれる先生方がたくさんいるということです。ほんとうにお世話になった先生方には感謝しています。

人生の先輩から

IT(情報技術)革命の中で



講師 鎌田 孝男
三菱信託銀行(株)不動産鑑定士
〔不動産経済学〕担当

なくならぬ。日本全体で見れば、IT革命に合わせて、バブル崩壊の後始末、金融ビッグバン、時価会計も含めたグローバルスタンダードの採用等もあり、時代は急激に変化してきています。

ドッグイヤー(Dog Year)という言葉があります。犬(Dog)は、人間の七倍の速さで年をとるといふことであり、現在のIT革命の速度は、ドッグイヤーの基準で考えなければならぬほど速いと言われております。

私が銀行に入ってから三十五年。この間で一番進歩したものはコンピュータであり、それに伴ってITが進歩し、インターネットの導入でさらに進歩してきたと言えます。

身近なことでは、私の勤務する銀行でも、二年前に各自にパソコンが支給され、社内通達等をパソコンで見られるようになり、昨年十月からは交通費、旅費等の精算もパソコン処理で行う事になりました。従来、私のような中高年層は、Eメールの利用等を含めてパソコンの利用度が低かったのですが、交通費等の処理は金目の問題でするので否応なく利用せざるを得

た。それが、これだけ時代の流れが速いと、それについて行ける人と、行けない人が出てくることであり、今後このバランスをうまくとらないと世の中がおかしくなるかもしれません。このような時代の中で、学生の皆さんに言うべきは、自分を見失わないように、そして自分を持てたいというものを持てたいということ。勉強であれ、資格であれ、スポーツであれ、興味であれ、何でも良いのですが得意技、打ち込むものを持つて欲しいと思います。大学は何をするところなのかについては、いろいろ議論はあると思いますが、大学時代に何かを見つけて、それが大事なことではないでしょうか。

繰り返しますが、二十世紀は二十世紀より速いスピードで変化していくのではないかと思いますので、その中で自分を見失わずに生きていってほしいと思います。

頑張ってます！ 函大生

函館大学を巣立ち、それぞれの就職先・社会で頑張っている卒業生たち。企業人・社会人として奮闘している近況や、後輩の在学生へのメッセージを寄せてもらいました。



上田 慎
(平成7年度卒・北海道大麻高校出身)

◆三井観光開発(株)札幌パークホテル勤務

インターネットでの予約サービスを開発しています

私は、函館大学を卒業し五年目を迎えています。その間に転職を二回経験し、現在は札幌パークホテル客室販売課に勤務しております。仕事の内容は、主にインターネットホテル予約サイトの商品開発に携わっています。

私が担当しているホテル予約サイトは現在、十五社を超えており、それに伴い宿泊予約全体に占める割合も急増しています。それゆえ各ホテルの情報やお客様からのリクエストは速く、確実に把握することが求められます。従来の予約方式より分かりやすいだけに、その対応にはより迅速で正確さが求められる分野であります。この仕事につくことができた大きな喜びを誇りに変えることができるよう頑張りたいと思います。

学生時代からホテルでウエーターのアルバイトを経験し、自分の進む道の選択を「ホテル業界」とし、就職活動に専心しました。アルバイトの経験は、私自身の将来展望を決める大きな財産であり、この仕事に向かうベストチャンスでありました。現在は、直接お客様へのサービスをやる時間は少なくなりましたが、今の仕事を担当するチャンスを与えていただきましたことに深く感謝し、「心豊かな魅力あるホテルマン」を目標に、これからも成長していきたいと思っています。

学生の皆さんも自分のテーマ(大切なこと)を常に持ち続け、探し続ける四年間を過ごしてください。



福田 力
(平成10年度卒・帯広緑陽高校出身)

◆積水ハウス(株)仙台北営業所勤務

忘れられないゼミナール、ヨーロッパ研修旅行

現在、積水ハウス仙台北営業所で日夜頑張っています。函館大学の魅力を一言でいえる、少数精鋭主義が行われていることだと思います。実業界で豊富な経験や幅広い人脈をもたれている先生方は、きめ細かい実践教育に努力されており、学生たちもその価値を感じているのではないのでしょうか。

私の学生生活の中で、特に思い出に残っていることは、大学主催のヨーロッパ研修旅行に参加し、ヨーロッパの人々と話したり飲んだりしたこと、またその中でも先生の紹介で、オックスフォード大学の学長先生を訪問した時のことは忘れません。また、ゼミナールの討論を通じて、しっかりと自分の考えを持つことが実感したことは、今でも仕事に生かしています。

仕事を始めてもつづいて二年。大学で身につけたものを仕事に十分活かすところまでには至っていませんが、そのうちには必ず仕事に結びつけるつもりです。



細川 政浩
(平成8年度卒・函館大学付属有斗高校出身)

◆(株)富士通パーソナルズ勤務

函館大学での四年間は人生の貴重な財産

大学受験が現実問題として自分の目の前に存在した時、進学に対する世間での見方、価値観、そして自分の力、将来展望などいろいろ悩み、考え、迷いもりましたが、意を決して函館大学への進学を決めました。結果として、それは大正解でした。仮に東大に進もうが、他の大学であろうが四年間という時間は、全て同じ動きで回転するものです。大事なことは、その時間を個人がいかに使うかが大きな力であり、重要な問題であるというのが僕の持論であります。

函館は何度もラマの舞台となるような美しい土地であり、この街で学生生活を過ごせたのは幸せでした。受講できる講義は多様であり、自分の進路の羅針盤に合わせて選択することもできます。学内施設も充実しており、「コンピュータなどの機器をはじめ、図書館も充実していて、学習への意欲を駆り立てられます。そしてなにより素晴らしいのが、少数精鋭で行われるゼミです。そこで学んだことは、後になり社会人として生きていくための力となり、大きなエネルギーとなっていることを実感しています。

豊かな時間、何かに挑戦しようとする思い、そして機会、それをサポートしてくれる設備と有能な先生。この中でぶつかる真剣な学びは、ペーパーテストでは計れない貴重な経験や体験を与えてくれました。大切なことは、今、「自分が何をやるか、何に挑戦するか」ということを自分で考えることです。函館大学での四年間は、私の人生にとって最も貴重な時間であったと信じています。

輸出入のメカニズムを知り 英語も重点的に

貿易論ゼミナール 教授 高月 晋

函館大学の教員となる前に、商社勤務で貿易を担当していた高月先生。このゼミで、高月先生が目的としているのは「貿易は日本の生命線です。貿易立国・日本に住んでいることを認識し、輸出入のメカニズムを知っている人材を育てること」です。貿易には、企業信用調査、取引契約、為替、保険など多岐にわたる分野が関わり、ゼミ生それぞれが各自の興味ある分野を卒業論文にまとめます。

「でも、貿易に関わる上で最も重要で基本的なことは、英語力です。ゼミでは、実際に貿易で使われている契約書・通信文を



教材にして、ビジネス英語にも力を入れていきます」とのことです。

また高月ゼミでは、学生には海外経験が必

要だと、一九七三年から十二年間、ゼミ単独の海外研修旅行を実施していました。これが現在、大学が主催している海外研修旅行へと発展したのです。

そのほかゼミ単位の活動としては、高月ゼミ生はローターアクトクラブという、ロータークラブの青年組織に所属し、ボランティア活動を行っています。そのローターアクトクラブも創立三十年に及んでいます。



高月ゼミの卒業生の中には、商社に就職し貿易を担当している人や、国際線のスチュワーデスなどがいて、国際的に活躍している人がいます。また通関士の資格を目指す人も多く、実際に貿易に関わる就職を希望する学生が多いようです。



交通論と地域問題を 中心に検討

都市・地域経済学ゼミナール 助教授 西村 淳

「都市・地域におけるさまざまな経済活動のメカニズムを明らかにし、問題解決のための政策を考える。都市の計量経済学モデルを作成し、シミュレーション分析を行う」というのが西村ゼミの目的。

「交通論」、「地域問題論」を中心テーマにしていますが、「学生からのユニークな意見や活発な議論を期待しています。が、なかなか思うようにいきません」と西村先生。それでもゼミ生に聞いて



みると、「地元函館における公共事業をいろいろ調べてみて、公共事業のメリット、デメリットを考えるようになった」という学生や、「企業誘致・立地に関する話が面白かった」などいろいろ。自分たちが生活する都市・地域に関心が向いているようです。

またゼミでの就職指導も熱心で、特に就職活動にインターネットや電子メールを利用する方法を、ゼミでやっています。「就



職活動支援のホームページ・リクルートナビに会員登録をして、データベースの中から自分の希望する企業を検索してエントリーする。そんなこともゼミでやりました」と西村先生。でも、「いちばん盛り上がるのは、コンパの打ち合わせをしている時かな」と笑います。



研究室から

論文名

錯誤

思い違いは誰しもある
それを法的にどう処理するか

「錯誤」は法律の根本に関わる概念で、とても大事な分野です。簡単に言えば、思い違いですね。

例えば民法上では、品物を購入したら間違った品物を買ってしまった。これは売買行為の一つの錯誤ですね。それから刑法上の問題としては、例えばAという人を殺害しようとして、間違つてBを殺してしまいました。これも錯誤です。

もちろん、私たちの日常で多いのは民法上の錯誤です。契約をしたが、意図したことと結果とが違っていた。とすると、錯誤をそのまま正當なものとして認めてもいいのだろうか、取引社会ではこれは大きな問題になりますね。行為者の過失だとしてしまつるか、いやそうではなくある程度保護すべきだ、という両方の考えがあり、それを法的にどう処理していけばいいのか、これが「錯誤論」です。

私は本来、民事訴訟法が専門なんです。が、本学は商学部ですから企業法学として、取引社会の実態と錯誤、というものに興味を持ったのです。日常生活の中で、錯誤つまり思い違いがどのような効果を



教授 清水 紘史

もたらすか、大変興味深いですね。思い違いは誰しもありますし、それが大きな問題になれば、例えばダイエーの前社長がインサイダー取引をした、しないの問題がありました。これも証券取引法の解釈の錯誤だと言えます。クーリングオフの制度も、人間の錯誤を根本としたものです。

本学では「法学」が教養課程の必修科目になっていますので、講義の中でいろいろな事例をあげて話しますし、錯誤論も話すことがあります。民法には「信義誠実の原則」というのがあり、世の中は信義に基づいて誠実に処理していかなければならないと法律で決めているのです。学生が社会に出て様々な商行為をする上で、相手を錯誤に陥らせてはいけない、相手を錯誤に陥らせると契約は無効になってしまうということを理解してほしいんです。

論文名

箱館英学史(Ⅲ)

Rightの訳語権 & 理の源流を探索

新発見、武田斐三郎が
「Right」を「権」と訳

「英学」とは聞き慣れない言葉だと思えますが、江戸時代、オランダの学問等を「蘭学」といいました。それに対して英米の言語を「英学」と言いました。

函館は、下田と並んで日本で最初に外国へ門戸を開いた港です。当然英米人



講師 井上 能孝

も函館に来たわけですが。では、当時の人たちはどのようにして英語を学んだのだろうか、興味を湧かせたのが「箱館英学」を研究するきっかけでした。

実は安政元(一八五四)年、あのペリレー提督が黒船を率いて箱館にやってきます。しかし当時の松前藩には英語を解する人は誰もいませんでした。そんな中で、箱館の人たちは英語という未知の言語をどうとらえたのだろうか。それで古文書を調べていくと、武士たちより先に、箱館商人・近江商人・船大工そして子供までも英語を耳学問で学んでいたのです。こうした歴史的バックボーンが、箱館英学に興味を尽きない理由でしょう。

四年前、これに先立つ論文で「Right」の訳語を、箱館奉行所の通詞・名村五八郎が一八五九年に「理」と訳したことを論じました。が、昨年新事実を発見しました。名村の二年前に、同じ奉行所の諸術調所教授役だった武田斐三郎が「Right」にあたる訳として「権」の一語をあてていたのです。武田斐三郎は、五稜郭を築造した人物としても知られる人ですが、福沢諭吉や西周が「権義」「通義」といった訳語を創出する十一年も前に「Right」を「権」と訳したのは快挙です。

昨年は武田斐三郎の没後百二十年で、その年にこの事実を発見できたことを嬉しく思っています。

最近の日課は メールチェック



●図書館員 一戸あゆみ

いつもは図書館のカウンターに座っている一戸さん。函館短大を卒業後、函館大学図書館員となって六年目。中学時代からやっているパドミントンも、現在もサークル活動で続けています。「普段はだらだらしている性格なので、スポーツをやっていると余計だらだらしてしまうんです」。週二回、月曜と水曜の勤務後が練習時間。「汗を流して、ストレス発散します」。休日、読書やビデオ鑑賞。「特に好きなジャンルがあるわけじゃなくて、話題になっている本や映画は一通り見ておきたい感じがします」。

最近、日課となったのがメール。「学生時代の友達と、電話でもよく話んですが、メールの方がいつでもできるので気楽ですね。それに、電話だと長電話になっちゃうし」。自宅ではパソコンではなく、ポケットボードを使っているそうです。「毎日家に帰ったらメールチェックして、メールが届いているのが楽しみ。最近で無沙汰してあるなって友達にメールを送ったり。毎日やっていると、はまってきますね」。でもメール友達には、女の子ばかりだそう。

外に出ることが 好きです



●入試係長 國安 秀之

昨年四月に、学園本部から函館大学教務課へ赴任した國安さん。入試担当となり、全国の高校へ函館大学のPRするため飛び回っています。「高校の先生や生徒さんたちによく多く会い、ちよつとも函館大学を記憶に残してもらおうと思ってますが、話の糸口を見つけたのが大変」と言います。

入試担当となつてからは、高校生の興味あるものは何かを知るため、若者向けのテレビや雑誌をよく見るようになったとか。中三と小五の娘さんとも「お陰でずいぶん話をするようになりましたね。音楽番組を一

緒に見たり、今なら毎週のヒットチャートベスト10はだいたいわかりますよ」と笑います。

家族揃つての旅行やスポーツ観戦が趣味とのこと。「フットボールはもちろんです。高校野球の地方予選もよく見に行きます。それと東京ディズニーランドが好きで、これまで十二回行きました。一二年に一回のペースで行ってますね。娘さんにねだられるのでしょつと聞くと「いいえ、私が好きなんです。家族を引っ張って行きます」。三連休でもこれれば、すくなくてもどこかへ行きたいそうです。

ニューヨーク帰りで アルトサックス練習中



●講師 佐藤 元治

経営分析論が専門の佐藤先生は、元証券会社勤務のアナリスト。十年ほど前の会社員時代に、二年間ニューヨークに住んでいたことがあり「その時ジャズの好きな友達に連れられ、本場のジャズを聴きによくクラブに行きました。それから、アルトサックスを吹きたいなと思ってたんです」。

その思いを持ち続け、アルトサックスを習い始めたのが五年前。「楽器をやるのは、中学のリコーダー以来」だったそうです。「楽譜も読めないのに、本当に一から勉強しました。けっこう体力も使いますし、い

いストレス発散ですよ」。年一回、サックス教室の生徒たちと発表会をやるそうです。今は、渡辺貞夫の曲を中心に練習に励んでいます。自宅がマンションなので、大きな音を出して練習できないのが悩み。

「けっこう趣味は多いけど飽きっぽい。でもサックスはすつと続けられそう」と話していました。「音楽は一生続けられる趣味ですからね。年をとったら、週末にクラブなんかに行ってサックスを吹く、そんな風に暮らせたらかっこいいじゃないですか」と言います。

お風呂は毎日 温泉通い



●助教授 世良 耕一

「函館はいいですよ。銭湯が温泉なんです」という世良先生。マンションの近くに銭湯が二軒あってほとんど毎日どちらかに通っています。

「銭湯と言っても、お湯は温泉なんです。しかも料金は三六〇円。函館には、こうした温泉の銭湯がたくさんあるんですよ。函館に来てからは、毎日温泉に入つて、とても贅沢な気持ちです」と言います。

銭湯に行く時間もほぼ決まっています。「早風呂なので入浴時間はわずか15分ほどなのですが、それでも大学の先生や学生によく会い、良きコミュニケーション

の場となっています。大学の卒業生にも、出会うことがあり、温泉に浸かりながらの同窓会といったところもあります」。とのこと。お風呂あがりには、地元鈴木牧場の牛乳を飲むのが楽しみです。

趣味は、中学の頃からフォークソングが好きでよく聴くこと。そして、高校時代はクラシックギターのアンサンブルに入つて、ギターを弾いていたそう。では、お風呂の中で好きなフォークソングを口ずさんだりするんですかと聞くと、「歌に関しては才能がないので歌いませぬ」とのことでした。

国際派助教授は 相撲が好き



●助教授 田中 弘樹

英語が担当で、学内の国際交流委員でもある田中先生。海外からの留学生の世話をしたり、ご自身ロンドン留学の経験もあります。昨年十月には交換留学の姉妹校提携を目指し、イギリスの三大学を視察・下交渉を行ってきました。

このように国際派の田中先生ですが、好きなスポーツは相撲。大学時代に、住んでいた東京足立区に相撲連盟がありそこに入会。自分でまわしを締め、相撲をとるようになりました。「自分でやってみたいほど相撲が好きだから」と、いつかその理由だそうです。一時腰を痛めたり、ロンドン留学があり相撲を中断し

ましたが、三十三歳で帰国後すぐに函館大学に赴任すると、函館にも相撲連盟があることを知り、もう一度相撲を始めました。相撲大会にも参加し、全道の公式戦では個人戦ベスト8に入つたり、北海道代表で全国大会に出場したこともあるそうです。

身長一七三センチ、体重八十五キロ、決して大きな体ではありません。「短い時間の中で全力を出しきる爽快感。それが相撲の魅力」と言います。

「僕はつき押し相撲」と言うように、前向きにぶつかっていく姿勢が信条のようです。

今一番の楽しみは 猫と遊ぶこと



●助教授 山田 康夫

「最近、変わった事といえばタバコをやめた事くらいかな」。生活パターンが同じだと飽きてくる、というのが禁煙の理由だそうです。「禁煙するとどつたるものになって、軽い気持ちですよ。以前は、一日二箱半も吸うヘビースモーカーだったそう。「いつも、漠然とやりたいなと考えていたことを、突然思い立って実行しちゃうタイプなんです」。

出身は函館ですが、高校卒業後に東京の大学へ進学。そして函館大学の教員として、再び函館に戻ってきたのが五年前です。「気持ちが悪く着くのか、函館に来てか

ら血圧も下がって健康的になりましたよ」と笑います。スポーツは、週一回のテニスと冬のスキーが趣味。これも健康のためと、生活リズムをつけることが目的で「本を読んで考えるという生活は、大学でも家でも変わらないんですよ。だから定期的にスポーツをやつて、生活にメリハリをつけなきゃね」と。

「暮らすことに関しては、やっぱり函館はいいまち」だと、つくづく実感しているそうです。今いちばんくつろぐ時間は、函館市内にある実家に行つて飼い猫と遊ぶことだそうです。

ちよつと歩いてみませんか

歴史の足跡と新しい魅力が詰まった西部地区

赤レンガ倉庫群が並ぶウォーターフロント、懐かしき函館の面影を残す街並み、そして幾筋かの坂道を上れば古き洋館や教会が……。皆さんのイメージする函館の、もっとも函館らしいところが、ここ西部地区です。近年では、ベイエリアがショッピング、観光スポットとして整備され、全国から訪れる観光客から最も人気の高いエリアになっていきます。函館の歴史の跡があちこちにあり、歩いてみるといろいろな発見が楽しめます。函館にいらした時には、ぜひゆっくりと散歩しながら函館の魅力にふれてみてください。



赤レンガ倉庫群
ベイエリアの顔とも言える「赤レンガ倉庫群」。明治末期に建てられた赤レンガの倉庫が、ショッピング街やレストランなどになっています。夕日に照らされる頃は、赤レンガの色がとっても赤く染まり、ノスタルジックな風景をつくります。



箱館高田屋嘉兵衛資料館
北前船によって函館の繁栄の基礎を築いた、高田屋嘉兵衛の足跡を紹介する資料館です。司馬遼太郎の小説「菜の花の沖」で描かれた嘉兵衛の生涯を、ぜひここで憶ってください。



日本最古のコンクリート電柱
大正12年に建てられたコンクリート電柱で、日本で現存するものとしては最古のものです。高さは10m、四角い形が当時の電柱だったので、記念の落書きも見られますが、やめてほしいですね。



五島軒
創業明治12年、120年余の歴史を持つ五島軒は、北海道で最も歴史あるレストランです。創業当時から伝わる伝統のカレーや、手造りケーキが有名。故船山馨の小説「嵐火野」の舞台にもなりました。



北方民族資料館
大正15年に建てられた日本銀行の建物を、資料館として利用しています。アイヌ民族をはじめとした北方民族関係の資料を見ることができます。



旧函館区公会堂

カールレイモン記念館 (レイモンハウス元町)

大正13年に函館に来て以来、ドイツ伝統のハム・ソーセージづくりを伝えてきた故カール・レイモン氏。現在は唯一の弟子である福田俊生氏が製法を引き継ぎ、カール・レイモン直伝のハム・ソーセージを作っています。



教会群

函館山の麓に建つ教会は、函館の代表的な風景。右側が函館聖ヨハネ教会、左側が函館ハリストス正教会、そして奥がカトリック元町教会。チャチャ登りという細い坂道を登ると、3つの教会を一度に見ることができます。



ペリー会見所跡 ●



北方歴史資料館
高田屋嘉兵衛の遺品や資料をはじめ、横山松三郎、コロウニン、北方領土関係の資料が保存・展示されています。

新島襄海外渡航の地碑 ●

高田屋本店跡 ●

北方民族資料館 ●

北海道第一歩の地碑 ●

旧函館区公会堂 (重要文化財) ●

旧イギリス領事館 ●

函館市文学館 ●

郷土資料館 ●

函館市写真歴史館 ●

北方歴史資料館 ●

ラッキーピエロ ●

ベイエリア本店 ●

赤レンガ倉庫群 ●

箱館高田屋嘉兵衛 ●

資料館 ●

日本最古の ●

コンクリート電柱 ●

五島軒 ●

函館ハリストス正教会 (重要文化財) ●

カトリック元町教会 ●

聖ヨハネ教会 ●

カールレイモン ●

記念館 ●

元町老番館 ●

元町老番館

坂の上にある喫茶店。函館市街や海を見下ろしながら、ティータイムが楽しめます。夏はテラスを開放し、オープンカフェになります。



ラッキーピエロ ベイエリア本店

函館市末広町23-18
☎0138-26-2099
営業時間/AM10:00~AM0:30 (土曜~AM1:30)
無休 ホームページhttp://www.luckypierrot.com/

は訪れたい言わば、巡礼の地、でもあるのです。そのラッキーピエロの第一号店が、ここベイエリア本店です。地元出身の西奈美さんと水野さんは、「中学の頃からよく来ています。函館の人は、ハンバーガーと言えばラッキーピエロです」と言います。本州出身の吉田くんは「三橋くんは、大学に入学して、友達に函館にしかない美味しいハンバーガーだっけと教えられたのがここだった」とうです。ファーストフードと言いつつ、多少時間がかかるのは、注文を受けてから一つ一つその場で作るから。一番人気の「チャイニーズチキンバーガー」は、鶏の唐揚げをばさばさハンバーガー。そのほか人気の豚豚バーガーやエビチリバーガーなどユニークなメニューは、もともと中華料理店を経営していた本格中華料理のレシピが生きていて、味はファーストフードの域を超えています。女の子二人は「ソフトクリームも美味しい」といって、男の子たちは「ラーメンやオムライスを出す店もあって、それがまたオススメ」と言います。これからは、イカソーメンやお寿司とともに、ラッキーピエロのハンバーガーが名物になるかもしれません。



函館を訪れる観光客、特に修学旅行生の間で、「函館に行ったらラッキーピエロ」とロクく噂が広がりました。そして、函館出身のGLAYが様々なところでラッキーピエロを紹介したことで、GLAYファンにとってラッキーピエロは一度は訪れたい言わば、巡礼の地、でもあるのです。

GLAYもオススメ!
函館にしかない名物ハンバーガー ラッキーピエロ ベイエリア本店



●吉田 太一 (三年・岩手県盛岡商業高校出身)
●三橋 聡 (三年・神奈川県平塚学園高校出身)
●西奈美沙織 (三年・函館商業高校出身)
●水野 倫子 (三年・函館商業高校出身)

いい店食べ歩き



クラブ紹介

●卓球部

**団体戦・個人戦でも全道優勝
これから続くか黄金時代**

月曜から土曜日の毎日、部員が集まり黙々と練習する姿が見られます。それまで、どちらかというと地味なクラブでしたが、ここ四年ほどの間に高校時代に実績のある学生が続々と入部し、三年前の全日本学生卓球選手権（インカレ）道予選で初の団体戦優勝。

そして昨年の同大会で、二度目の団体優勝に加え、個人戦で一位から三位までを独占しました。

個人戦での一・二位は、一位・関口幸治（三年・八雲高校出身）、二位・山岸久記（四年・函館商業高校出身）、三位・田中良太（四年・北海道工業高校出身）。

練習方法は、選手同士がお互いに気づいたことをアドバイスしあい、そして一人一人が自分の強化ポイントを見つけ集中練習す



るという方法です。ですから一人一人が、自己管理をしっかりとしています。試合形式の練習は、函館市内の大学・高校へ出向いて



練習試合を行っているそうです。
新キャブ
テンとなった関口くんは、「三年生以下の選手

クローズアップ

剣道部

実力全道トップランク、 学生剣道新人戦で団体二連覇！

道内の大学ではトップランクの実力を持ち、毎年のように全国大会に出場。先月行われた、全道新人戦大会でも二連覇を果たしました。今後の目標は「全国大会でも上位に食い込むこと」と部員一同ますます練習に熱が入ります。

最近三年間で全道大会団体戦 準優勝二回、三位一回

北海道内における函大剣道部の実力は、過去三年間を見ても団体戦で準優勝一回、

ています。「もちろん礼儀が基本になるわけで、その精神を社会人になる前にしっかり身につけてほしい。そして、将来どの職業に就こうと、指導者となるための気構えを持つて

ほしいと願っています」と言います。

今年卒業する前主将の立花知之くん（四年・網走南ヶ丘高校出身）は「函大に入学したお陰で、二年と四年の時に全道優勝を経験できました。継続は力なり、を実感できたことは、これから的人生でも大きな力になるでしょう。後輩たちにも、継続は力なり、で部を受け継いでほしい。」

そして新主将の樋渡貴志くん（三年・新潟県高志高校出身）は、

「一人一人が自分に厳しく、そして部員同士では切磋琢磨して部を盛り上げていきたい。目標は、全国大会で上位に食い込むことです。」

昨年十二月に、本学体育館で行われた北海道学生剣道新人戦大会でも団体優勝を飾り、見事二連覇を果たしました。



▲前主将の立花知之くん（左）と新主将の樋渡貴志くん。昨年の全道大学選手権個人戦の一位と二位。



●写真部

活動再開で張り切ってます いろんな活動を計画中

現在、部員は七名。実は、昨年春に部員不足となり、活動をいったん休止。でも、このままなくしてはいけないと、部員を募り活動を再開するようになりました。

部員は二年生が中心で、はっきり言っていないが、最初は初心者。今は、月一回集まって顧問の

永盛恒男助教からカメラの基礎知識を教わっているところです。でも「函館の美しい街をカメラで撮ってみたい」という思いは同じようです。

部員の中村淳くん（二年・東京都正則高校出身）は、アルバイトをしていた競馬場で撮った写真がスポーツ新聞に掲載され、「たまたまうまく撮れたんだけど、その時写真でおもしろいなって思いました」と言います。

これからは、自分達で部の活動をいろいろ企画したいとプランを練っているところです。たとえば、市内を巡る撮影会や、夏休みを利用しての撮影旅行、そして学内の写真展などアイデアはぐらみまわります。

でも、慢性的な部員不足に悩まされている状況なので、「これから写真部の経験のある後輩が入学してくれればいいな。もちろん誰でも歓迎ですが」と胸の内を語っていました。



平成十二年度の成績

- 第46回北海道学生剣道選手権大会
 - 1位 立花 知之（4年・網走南ヶ丘高校出身）
 - 2位 樋渡 貴志（3年・新潟県高志高校出身）
 - 3位 多見 郁雄（1年・東京都正則学園高校出身）
- 北海道地区大学体育大会 三年連続優勝
- 北海道学生剣道優勝大会 準優勝
- 全日本学生剣道優勝大会 ベスト32
- 第38回北海道学生剣道新人戦大会
 - 団体 優勝（2連覇）
 - 個人 1位 田村 友鏡（2年・北海高校出身）



オーストラリア・ニューカッスル大学 武術指導者マイケル・レイさんが来校

函館大学の姉妹校であるオーストラリア・ニューカッスル大学で、武術の指導をしているマイケル・レイさんが、函大剣道部の見学のため来校しました。「環境的にも、練習内容でも、さすがに充実していますね。今回函大剣道部を見せてもらい、指導者としてたいへん参考になりました」と語っていました。



公開講座

平成十二年度上半期公開講座を振り返って —心の時代を探る—（「教養月間」シリーズ） モノの豊かさから心の豊かさへ

函館大学では、昨年六月の毎週土曜日に「教養月間」と銘打ち、四回連続で学内の専任教員による公開講座を行いました。科学、文学、心理学、経営学の四人の教員が、それぞれの立場から分野は違えども、いずれも「モノの豊かさから心の豊かさへ」をテーマに、人間の本性に迫る内容でした。毎回多くの市民が聴講に訪れ、各先生のお話に興味を持って聞いていました。

●公開講座実施委員会委員長

助教授 田部井英夫



「地域に開かれた大学」を目指し、本学は関係機関や野又学園各校のご協力を賜りながら、これまでさまざまな公開講座を一般市民向けに開催してきました。公開講座実施委員会一同、「生涯学習社会」を目指し、地域のニーズに応えるべく、いっそう精励努力したいと思っております。

今年度は新たに本学からのメッセージとして、「モノの豊かさから心の豊かさへ」という教養月間を企画いたしました。本学からのメッセージです。

日本で「豊かさとは何か」が問われ始めるようになったのは、今に始まったことではありません。この切実な問いかけは、高度成長期の終わりから第一次石油ショックの頃に遡ります。それから、三十年近くの時が経過しましたが、その間、まさしく「失われた問いかけ」となっておりまして。新たなミニシアムを迎えるにあ

たって、改めて問い直してみた次第です。

二十世紀最後の四半世紀の間に、日本はすっかり社会全体のたががゆるんでしまったようです。教育も然りです。今、教育の在り方、教育制度そのものが問われております。我々が教育問題に取り組み際に忘れてならないことは、単に教育に限った問題でも、また高等教育に限った問題でもなく、社会全体の問題であるということだと思えます。解決に必要なことは、ウィジョンではないでしょうか。新たな世紀を迎え、我々は「どこへ向かおうとしているのか」、「どのような社会を築こうとしているのか」真剣に今一度問うべきでしょう。

今、日本社会は、他の諸国と同様に、「情報化」、「サービス化」、「グローバル化」、「少子高齢化」等、目まぐるしく変化しております。その変化に社会を構成している個々人はもとより、家庭、地域社会、国家という旧来の共同体の意識と形態は、いっそうに対応しきれないと思えます。

押し寄せる波に翻弄されることなく、「人間社会の本質」を見失うことない新たな地平と北斗を見出さなければという思いで、微力ながら心の時代を探ってみました。

第一回

「科学の発展と人間の幸せ」

講師：教授 溝田 春夫



近年の科学および科学技術の進歩はあらゆる分野で目覚ましいものがあり、その結果、以前と比べて私達は物質的に豊かで快適な生活を送れるようになった。食糧の分野では品種の改良



農業、化学肥料などの発達によって大幅な食糧の増産が可能となり、また医療の分野でも医療革命により人間の寿命は急速に伸び、二十世紀初頭では二十億人であった世界の人口が、この百年の間

に三倍の六十億人に急増した。しかし、豊かな生活を求め、化石燃料を中心としたエネルギーの大量消費によって引き起こされた地球の温暖化や酸性雨の問題、新たな化学物質による環境汚染など、今や私達は地球規模の環境問題に直面するようになった。また、遺伝子情報の解読など生命科学の分野における最近の発展は著しいものがあり、その発展は医療・食糧分野などへの応用に大きな期待がもたれているが、同時に生態系のバランスや倫理面での問題を考える時、生命の領域にどこまで踏み込んでいくべきかという重要な問題も孕んでいる。

二十一世紀における科学の発展が私達の生活や生き方、強いては地球上の生命全体に影響を及ぼす可能性があることを考えると、科学に直接関係ない人でもこれからの科学の発展の方向性に関心を持っていかねばならないであろう。科学者、技術者のみならず一般の多くの人たちの考えが結果として科学の進むべき方向性に大きな影響を与えるからである。科学の発展によって生ずる結果は、良くも悪くも私達自身に降りかかってくるのであるから。そして社会の様々な発展と人間としての豊かさ、幸福との関わりを改めて考えてみる必要があるのではないだろうか。

第二回

「ホメーロス、プラトンそしてアリストテレス—その魂をたどる」

講師：教授 宮崎 正孝

私たちにあって、どのように生きるか、どのように死ぬか、という問題は大きな問題であったし、今でも大きな問題である。

私は一仏教徒としてこの問題を考えしてきたのだが、今一つ日本を離れ、東洋を離れて、西洋思想の根源である古代ギリシアの哲学者たちの思想の足跡を辿ってみてみたかった。

今や私の現在にとって大切な命題は、どのように死ぬか、ということである。ソクラテスはどのようにして死んでいったのか、という笑いながら、幸せそうに死ぬことができたのか。その命題を今なお追求しながら生きている。果して私は、にこっと笑って死ぬのか。そこが問題である。



第三回

「カウンセリング理論に学ぶ援助的人間関係」

講師：専任講師 会沢 信彦

カウンセリングや臨床心理学の理論から、私たちは援助的な人間関係を築くためのさまざまな知恵を学ぶことができる。

まず、カウンセリングの代名詞とも言える求談者中心療法から発展した「フォーカシング」では、私たちの微妙な身体感覚こそが知恵を秘めているのだと考える。したがって、かすかな内なる声に耳を傾けることが、私達を成長へと導くのだと教えてくれる。

また「アドラー心理学」では、すべての人間関係は「ヨコの関係であるべきだ」と訴える。そして、お互いを対等な人間として尊敬し合う時

第四回

「「こころ」のルネッサンス—気概と信頼」

講師：助教授 藤嶋 暁

「モノの過剰」を原因とする多くの事件・事故が引き続いてきている。たとえば、バブルの発生、家庭や学級の崩壊、放射能漏れや脱線事故、マネーゲームによる経済の混乱、老舗企業の倒産など、これらはひとえに「理性的過信」が引き起こした悲劇である。新しい世紀を迎えるに当たって、われわれは改めて「モノの豊か



さから「心の豊かさ」に自らの視座を移すことが必要ではないだろうか。かつては、この世界が近代への入口に立つた



にはじめて、私達は他者を勇気づけられるのだと考えている。さらに、近年心理臨床の分野で注目を集めつつある「フリーセラピー」では、問題と解決は別であると考える。したがって、問題を掘り



下げることよりも、問題が起こらない例外や、解決に利用できるリソース（その人の資質、能力、強み）にこそ焦点を当てようとする。

したがって、援助的な人間関係を築くポイントは、①相手の言葉に十分耳を傾け、②自分自身の心のメッセージを聴き、③自分を勇気づけ、④自他のリソースを探し、そして、⑤他者に貢献しようとする意志を持つことであると云えるだろう。

「肯定」「尊敬」「勇気づけ」——これこそが、人間関係の達人になるためのキーワードである。いた二百年前、ヘーゲルは「気概」を取り上げ、またアダム・スミスは「信頼」により、こころが失われることへの警告を発している。つまり、ヘーゲルによれば、フランス革命によって、「気概」ということを忘れ、すべてに平等を選択した人間の世界に、もはや正しい意味での歴史は存在しないと。一方、アダム・スミスは、本当の安定や幸福は、人間同士の「信頼」により実現されるものであるが、その「信頼」が次第に失われるのが時代の必然であるとしたのである。

振り返って、現代社会だけでなく、われわれ日本人の社会でも、このような「こころ」の喪失は進行しつつあるのではないか。いかにすれば、われわれは再び「こころ」を取り返すことができるのだろうか。

オーストラリアの感動を写真に
—宮崎正孝教授の写真展—



「毎朝、散歩を欠かさないのは普段の生活といっしょ。函館でも毎日、朝夕の函館山を撮り続けて二十一年になります」とのこと。
さて、今回自らの作品を学内に展示したのは、「私の感動を少しでも感じてほしかった」と、本学の姉妹校のある土地を学生たちにも知ってほしい」という気持ちからです。「誰もいない早朝、ワイン色に染まった空気の中に一人いるときの感動は言葉では表現できません。言葉で表せないものを表現できる一つが、写真だと思いますね。」



昼食や講義の合間など、学生の憩いの場となっている喫茶ルームの壁に、十枚程の写真パネルが飾られています。どの写真も、空が赤く染まった写真ばかりです。

実はこの写真パネルは、写真を趣味としている宮崎正孝教授がオーストラリアで撮影したものです。英文学が専門の宮崎先生は、函館大学の姉妹校であるオーストラリア・ニューカッスル大学の大学院博士課程へ、春・夏休みを利用して留学しています。そしてオーストラリア滞在中、毎日カメラを持って朝日と夕日をねらって撮影したのが、展示してある写真です。



函大弁論研究会 初の弁論大会を開催！
「函館観光」をテーマに意見堂々と
「函館大学弁論研究会による初の弁論大会が、昨年の十一月二十六日に行われました。この大会では、小野田智部長を中心とした七名のメンバーと、スコット・ハーディー、ブライアン・ダップ両講師による「函館観光—現状と将来」への提言がなされました。学生の視点でとらえた函館アクアコミュニティ計画への見解をはじめ、観光都市函館を見つめ直すという強い気持ちが出述べられ、参加者からは堂々とした意見発表に盛んな拍手がわき起こりました。」



弁論研究会は、昨年四月、元STV函館放送局長の小林裕幸氏が本学の特別講師として着任されたのをきっかけに発足しました。小林先生の指導のもと、小野田智部長（三年・宮城県仙台商業高校出身）を中心に、部員一同、発音や話す訓練などを続け、成果発表ということでも今回の弁論大会となりました。当日は、行政や経済関係者、市民の皆さんが多数集まり盛会でした。

弁論では「緑の島」構想から、函館病院跡地利用の歴史館建設、いか釣り体験ツアーの実施、クリスマスファンタジーによる冬の観光、ドラマやGLAY効果を考えて新しい観光スポットの工夫など様々な意見が出されました。また、一度来た人がリピーターとして「もう一度行きたい街」への見直しは、自分の街に誇りを持つことから始まる。函館の持つすばらしさは、歴史と自然に恵まれた街であること、さらにホスピタリティのある街であること、そしてこの街には人を癒してくれる温かさがあることを市民一人一人が自覚することであると語っていました。弁論大会を機に函館という街について真剣に意見を出し合ったという研究会の面々の表情は、自信にあふれていました。第二回を期待したいと思います。



国内外の一流アーティストを招き野学園コンサートを開催
去る十月二十七日、野又学園主催のコンサートが函館大学大講堂で開催されました。
今回は、ウィーン・フィルのチエロ首席奏者であるフリッツ・ドレシヤル氏と、桐朋学園他で指導に当たりながら国内外で演奏活動を続けるピアニストの須田真美子氏を招いての「チエロとピアノのリサイタル」。
リサイタルは、第一部は両氏のアンサンブル、第二部は須田氏のピアノソロでショパンの作品を三曲、そして最後は再び両氏による演奏で「白鳥」他三曲の三部構成で行われ、その美しい音色と高度な演奏に、会場を埋めた聴衆は酔いしれていました。

Oh!大学祭 第三十五回「函館大学祭」を開催



●大学祭実行委員長
山崎 貴史 (四年)

天高く馬肥ゆる秋にふさわしい天候に恵まれた十月十四・十五日の両日、第三十五回「函館大学祭」が開かれました。私は第三十三回から大学祭の運営に携わり今年で最後となるので、感無量の気持ちでした。
今回は、前年の「火」と関連させ、「水」というテーマで四月から準備をしてきました。テーマ決定には事前にアンケートを実施し、それを基に内容を企画し、地域に潤いをもたらすようにという願いを込め、「水のように地域に根ざした大学祭」を目指しました。
初企画として、地域で活動しているボランティアグループ(アマチュアバンド)による



ユアバンドによるライブ、YOSA KOIチーム「躍魂いさり火」、大谷女子短大の光る影絵サークルやダンスサークルのステージ)を招いての芸能発表や、テレビで活躍している大泉洋さんと森崎博之さんによるトークショーを開催しました。その他、ジャズ喫茶やフリーマーケット、コンテスト一位になったた焼きなどの模擬店、農家朝採れの野菜市、また学内に「学祭神社」を設け、学祭の安全と地域住民の繁栄を祈願させていただきました。そして、体育館での餅まきで大学祭の成功に歓声を上げ、二日間の日程を無事終了しました。思えば、アツという間の二日間でしたが、開催までは議論白熱の連続でした。しかし、十五人の実行委員の仲間が四月から心を一つにして描いた「大学祭」、函館という土地柄を生かし、表現しようとした思いは、かなえられたように思います。そして、精一杯頑張ってきた成果を後輩に引き継ぐことができたことを一同うれしく思っています。



みなさんの手による第三十六回の大学祭を期待しています。

話題の窓



IT革命

電子計算室長・助教 津金 孝行

いま「IT革命」という言葉が、テレビや新聞を賑わせています。ITとはInformation Technologyのこと、日本語に直訳すると情報技術という意味です。言葉自体はさほど画期的な言葉ではありませんが、ITと頭文字を取り出してIT革命という特別な言葉であるかのよう

に社会に広がったところが、ITの魔力的な部分だと感じます。
ITは、情報技術ですから、コンピュータや通信に関係した技術であることが、理解できると思います。では、それがどんな技術で、経済や社会にどのような影響を与えるかは、分かりづらいかもありません。IT革命の重要な技術は、コンピュータの高性能化・小型化・低価格化と通信の高速化・大容量化です。そして、これらに共通した技術が、デジタル情報処理です。デジタル情報処理では、全ての情報を数字で表現し統合的に処理します。これらの技術の進歩は、加速度的に進んでいます。
ITの進展が革命と呼ばれる理由は、ITが十九世紀の産業革命に匹敵する技術革新と考えられるからです。産業革命のとき蒸気機関の発明が、経済・社会を大きく変えたように、ITも経済・社会を大きく変えようとしています。

具体的には、安価で高性能なパソコン、高性能なゲーム機、コンピュータを内蔵したデジタル家電などが急速に家庭へ浸透し、誰もがこれらの情報機器を使って、簡単にインターネットを利用できる状況になってきたということです。さらにインターネットに接続可能な携帯電話(イモード、Eメールなど)の爆発的普及は、インターネットをより身近なものとしています。今後は一般家庭へ光ファイバーケーブルを引く計画が進行しており、映画やゲームソフトのような大量の情報短時間で伝送できるようになります。

ITがもたらすネットワーク環境は、革命的に次々と新たなビジネス形態を生み出しています。インターネット上の店舗は、すでに定着してきました。いま注目を集めているのは、音楽のネット配信です。今後、これまで想像もしなかった新しいビジネスが生まれるでしょう。
IT革命は、技術的な話題が前面に出ることが多々ありますが、どんな場合でも大切なことは、「商いのアイデア」です。難しい技術は、ITが進化すればするほど、誰もが簡単に利用できるものになります。つまり最終的には「商いのアイデア」が勝負となるのです。従って、IT社会こそ函館大学で商学を学ばれた方々の活躍の場ということができるのです。

函館大学付属柏稜高等学校

〒042-0942 函館市柏木町1番34号 ☎(0138)51-1481・FAX(0138)32-5879



▲本多米司校長



▲情報処理教育に力を入れる商業科。パソコンも昨春最新機種にすべて入れ替えた。



平成九年度から男女共学化 新しい学校として生まれ変わりました

平成九年度から、男女共学制の実施に伴い函館大学付属柏稜高等学校に改称。前身は、昭和三十一年の函館有斗高校女子商業部からスタートし、函館女子商業高校、函館大学付属女子高校と変遷してきました。

服や校歌も一新し、全く新たな高校としてスタートしました。制服は森英恵デザイン、校歌の作詞・作曲は中村メイコ・神津善行夫妻が手がけたものです。生徒はもちろん、父母からもたいへん好感が持たれています。

普通科(特別進学コース)一般コースと商業科(情報ビジネスコース)を持ち、進学率は年々向上し約六〇%にまで上がっています。特徴としては、予備校の講義ビデオによるサテライト講座、放課後九時までの学校開放、さらに就職指導では資格教育などがあります。また教員と生徒の距離を縮めようと、毎朝教員全員が校門に立ち、登校する生徒へ声をかけています。「一人一人の生徒に声をかけ、生徒と教師が一對一の関係であるように」という本多米司校長の発案で始めたものです。



▲創部三年目で函館地区優勝を果たした野球部

クラブ活動では、共学になったから創部された野球部が、創部三年目で函館地区優勝・全道大会出場という快挙を達成。女子では、ハンドボール部がインターハイの常連、ドリルチームというバトントワリングのクラブは、12年連続全国大会出場を続け、今年度も日本武道館でのコンテストに出場しました。



▲インターハイ常連のハンドボール部



▲12年連続全国コンクール出場中のドリルチーム

心づれ

「人生は芝居の連続。上手な役者が食糧になることもあれば、大根役者が殿様になることもある。とかく人生を重く見ず、捨身になって何事も一心に行うべし」(福沢諭吉) 『世界金言辞典』 田島諸介・梧桐書院五〇頁。

右の名言は、時々折々に想い浮かべては怒りや妬みや憎しみ、恨み、悲しみや失望の心を克服し、解消してきた言葉の一つです。華やかな先輩や友人、知人の活躍の記事を読み、噂を聞いて劣等感を強め、妬ましく思うこともあり、何故私は不運なのであろうかと嘆き悲観する。そして、社会を恨み、師を恨み、親兄弟を恨み、遺伝子まで恨み、絶望的になる場合もあるのです。



函館大学学長
河村 博旨

勇気・希望・感謝の生活 劣等感・絶望・妬みや恨みからの脱出

こういう嘆き悲しみたくなり、恨みたくなるよつぱ悲観に満ちた夜には、上述のような先人先達の名言金言を脳内に想い浮かべ、本棚から「名言集」、あるいは「名言名句の辞典」などというタイトルの書物を取り出してページをめくる。

そして、どうせこの世の人生なんていうものは、芝居や演劇のようなものと割り切つて考えてみることにする。そして……

「人生は自分が役者であると共に観客であつて、演ずるにも見物するにもできるだけ面白く賑やかで華やかな芝居であつてほしいのだ」(永井荷風) 一八七九〜一九五八、八〇歳没、小説家随筆家。

こういう名言に出合うページを開き読んでみる。そして、「人生は、どうせ一幕のお芝居なんだから、あたしは、その中でできるだけいい役を演じたいの」(毛皮のマリー) 寺山修司 一九三五〜一九八三、四八歳没、青森県三沢生まれ、劇作家、歌人、という名言も発見して精読をくり返す。

そして、あの人もこの人も、それぞれに主役や脇役を演じたいと願い、言葉を飾り、身を飾る努力を重ね、流行の髪型に流行のブランド品を揃え、新型の新車を買っているのであらうかと想像しながら周囲の友人知人や近隣の人々を観察してみる。

家の新築や家の新設、学歴、有名会社への就職、役職や肩書き。こういうものへの願望とその表現。こういうことも、すべては華やかで賑やかな芝居を盛り上げ、その芝居の中の主役やいい役を演じるための衣装であり、小道具であり、台詞の訓練である。と考えることが可能であらうか。

こんなことへと連想は拡大する夜もあります。そして、嘆きも緩和し、妬みも、恨みも軽減、絶望感や劣等感も解消し始めるのです。

そして、先人先達の物語や自叙伝や伝記への読書欲を強くして、図書館の蔵書や書店への注文のことも想像し、入手して精読をくり返す場合もあります。

そして、「この世は、考える人たちにとっては喜劇であり、感じることにとっては悲劇である」(H・ウォルポール) 一七二七〜一七九七、八〇歳没、英国の作家・政治家。同旨、バルザック 一七九九〜一八五〇、五一歳没、仏国の作家。

沈着冷静に考えて、自分自身と周囲の人々の生き方を観察してみると、吹き出して笑いだしたくなるような喜劇の場合もあり、苦笑したくなることもあるようです。しかし、冷静さを失い、動転し、驚いたり、慌てたり、興奮したりして、感情的、非理性的な精神状態となると、嘆き泣きさげび、わめき散らしたり、と乱したりしたくなる。そして悲劇の主人公の役を演じていると悲観的な心になる場合も多いようです。

こういう場合は、感情のまま

に興奮したままに、嘆きや悲しみや悔しさ、恨みや妬みや泣きごとや愚痴や妄想までも、正直に日記か大学ノートにでも書いてみることにする。

そして、次の夜にも次の夜にも書いてみることにする。正直に感情のままに書くのです。

そして、一週間か一ヶ月間のあとになって、休日か日曜日にでも、ゆつくりと落ち着いて冷静になって、前に書いた乱れた文章を読んでみるのです。そして、苦笑したくなったり、吹き出して笑いたくなる、とすれば、沈着冷静に考える人となつている自分を発見できるのです。そして……

「露と落ち露と消えぬる生命かな 浪花のことは夢のまた夢」(豊臣秀吉)。あるいは、「さまざまある。これからが私の人生だ」(檀 一男) 一九二二〜一九七六、六四歳没。小説家、山梨県生れ) などという名言を想い出すなどして、生きていくこと自体に感謝し、明日への勇気と希望の心を強め、誠実勤勉な一日を誓う夜とする。—— 悩みと迷い多き私の告白日記より。

参考文献 『日本名言名句の辞典』小学館 『名言名句の事典』昭和出版、新潮世界文学事典、同上日本文学辞典など。